

Y13a **科学ライブショー「ユニバース」15年間の歩み**

亀谷和久 (ISAS/JAXA)、半田利弘 (鹿児島大)、戎崎俊一 (理研)、伊藤哲也 (国立天文台)、矢治健太郎 (立教大)、野本知理 (千葉大)、片岡龍峰 (東工大)、大朝由美子 (埼玉大)、松浦匡 (日本科学技術振興財団・科学技術館)、ほか科学ライブショー「ユニバース」関係者一同

科学技術館 (東京都千代田区) において毎週土曜日に上演されている科学ライブショー「ユニバース」は、1996年4月以来約15年間にわたり約1500回の上演を続けてきた。研究者が案内役となり、本物の科学の魅力をライブショー形式で伝える点が最大の特徴であり、これを定期的に長期間継続している点では世界でも類を見ない。その内容は、迫力のあるCGによるシミュレーションを駆使して宇宙や化学等の最先端の科学の話題を展開し、観客と双方向コミュニケーションをしながら進行する。その他にもインターネットを介して米国の天文台と繋いで行なう「ライブ天体観測」、第一線の研究者を招いて最先端の研究内容を紹介していただく「ゲストコーナー」などライブ感を活かしたコンテンツが豊富にあり、案内役はこれらの中から数個を選びライブショーを構成する。ライブショーのアシスタントを務める学生チーム「ちもんず」の活躍もユニークな特徴である。ライブショー中のPC操作だけでなく、ゲストとの連絡やライブショー運営全般を担い、さらにはソフト開発も手掛けてきた。ライブショーで使用するソフトはほぼ全てちもんずや関係者によって開発されたものであり、ライブショーで使用され改善点をフィードバックすることで常に進化を続けてきた。また、会場となるシアターも従来の平面スクリーンから2008年に常設公開施設では日本初の全天周立体フルデジタルドームシアター「シンラドーム」へと更新され、より迫力のある映像で観客を魅了することに成功している。発表では、このように研究者、学生、科学館が三位一体となって常に進化を続けてきた「ユニバース」のこれまでの歩みを報告する。